平成30年度　上田市立菅平小・中学校　グランドデザイン

めざす子どもの姿

① 自分の良さに気づき、友だちの良さを認め合える子ども
② 他者への感謝の気持ちをもち続ける子ども
③ 自ら考え、判断し、行動できる子ども
④ 伝え合いを通して考えを深める子ども
⑤ 体験を通して心身を鍛える子ども
⑥ 郷土に誇りをもち、郷土を愛する子ども

学校教育目標

郷 土 を 拓 く 大 地 の 教 育

《認め合う心》《自ら学ぶ・仲間と学ぶ》《自ら鍛える心と体》

めざす教師像

① 自らが子どもの良さに気づき、伝え、励ます教師
② 優しく・厳しく、子どもを導く教師
③ どの子にも分かる、楽しい授業を創造する教師
④ 子どもと共に汗を流す教師
⑤ 地域に根ざし、地域と連携する教師

本年度の重点目標

（1）互いの良さを認め合い、前向きに取り組む学級づくり

〈重点活動〉
①相手意識のある「あいさつ」を心掛け、発達段階に応じた人との関わり方やコミュニケーション能力を身につける
②自分を素直に表出し、主体的で対話的な学習の素地となる学級集団づくり

（2）友と伝え合い、自ら進んで学習する子どもの育成

〈重点活動〉
①基礎学力や体験的学習が主体的・協働的な学びにつながる「めりはりのある単元展開」の創造
②個別の指導計画による個に応じた“分かりやすい授業”“指導のあり方の追究”を通して、課題をみつけ、解決に向けて実行できる授業づくり

（3）菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる

〈重点活動〉
①この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流、体験を仕組む
②生活科、総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る

学級活動の重点

自らの良さに気付いたり、互いの生活の仕方や考え方の良さを認め合ったりしていけるような体験活動や話し合い活動を進める。

道徳教育指導の重点

友だちの姿に道徳的価値を見いだし、共に認め合えるための指導。
価値観の違いに触れ、多面的・多角的視点を涵養するため、題材や場面の工夫をし、考え議論する道徳を行う。

人権同和教育指導の重点

研修を通して職員自身の人権感覚を高め、子どもの心に迫る指導の研究を深める。
参加型体験学習を取り入れ、お互いに認め合い解決の方向が見える明るい人権同和教育を進める。

特別支援教育指導の重点

一人一人の特性や教育的ニーズを全職員で共通理解し、保護者や関係機関と連携して、その子に適した指導を行う。
個別の指導計画に基づく教育的支援を行う。

生活・生徒指導の重点

小中併設校であることの利点を生かし、一人一人の子どもについて、小中の全職員が理解し、９年間を見通した指導に努めるとともに、一人一人の個性の伸長を図る。

全校研究テーマ

どの子も「わかった」「できた」を実感できる指導のあり方

～自分の考えや思いを友と伝え合いながら学んでいく授業～

⑴授業改善・学力向上を目指した重点的な取組

①小中共通した「学習の約束」と学年に応じた学習習慣の定着を図る。
②「見とどけたい子どもの姿」から授業を構想し、毎時間の「ねらい」を明確にすると共に、教材・発問・板書の工夫をする。
③子どもの実態を把握（個別の指導計画の作成）した上で、授業の中で個に応じた支援をする。
④「考え、伝え合う」学習の場面を確保する。
⑤授業の終末に、学んだことを確認するために振り返りの場面を設定する。
⑥個に応じた家庭学習になるよう指導をする。

⑵子どもにつける力がついたかどうかを評価するための検証方法

①個別の指導計画を定期的（前・後期）に見直す。
②全国学力・学習状況調査、学力検査（NRT）、PDCA調査における正答率や結果から学力の定着をみて、指導方法を検討する。
③無記名授業アンケートを実施して、結果を職員会で検討し、指導の振り返りと共に授業改善を行う。
④毎時間の授業の終わりに、分かったことを自分のことばでまとめさせたり、発表させたりするなどして評価する。

⑶教職員の指導力向上に向けた校内外研修

①自己課題を設定して、1人1公開授業を実施すると共に、授業力向上のための研修・研究を位置づける。
②授業力向上のために「授業構想シート」を作成し、授業実践をする。
③職員会議で「子ども理解」の時間を設け、個に応じた支援を検討する。
④困難を抱えている子どもへの支援について、指導者を招き職員研修を行う。

総合的な学習の時間の重点

体験活動を多く取り入れ、探究的な学習を通して問題解決を図れる場を設定し、友だちと考えを発表し合って、共に追究していこうとする態度を養う。

スキー科

地域の特性を生かし、「めあてをもち継続して取り組む」「達成感や充実感を感じて取り組む」「感謝の気持ちをもち、マナーを守り、実践する」ことを通して、心身ともに健全でたくましい子どもを育てる。

英会話科

英語でのコミュニケーション活動の楽しさを体験し、言葉や文化に対する興味関心を高める。

特別活動指導の重点

［児童会・生徒会］ 日常的活動、奉仕活動、行事的活動の三本柱にめりはりをもたせ、特に当番活動等の日常活動を徹底させる。また行事活動においては、独自性かつ創造性のある活動を計画できるようにし、委員長会を定期的に開き、横のつながりをもたせる。
［学校行事］ 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

子ども理解

本校の強みと課題

1　開拓の歴史に立脚した農業と観光という独自性のある地域
2　厳しさと豊かさを併せ持った大自然に囲まれた環境
3　少人数学習集団（気心の知れた仲間⇔固定化された人間関係）
4　小中連携による９年間を見通した教育活動
5　学校への協力を惜しまない、保護者・地域（信州型ＣＳ「ＴＥＡＭ　　ＳＵＧＡＤＡＩＲＡ」）